

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅳ（食事） 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	工藤智美・石岡和志・山田克宏	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行なうための知識・技術を習得する学習とする。人間にとっての食事の意義・目的を踏まえた上で、その人らしく生きるための自立（自律）に向けた食事について学習する。

【到達目標】

- 1) 食事の意義と目的を理解し、食事援助の実践の根拠について説明できる。
- 2) 対象者の能力を活用・発揮し、食事の自立に向けた基礎的知識・技術を習得する。
- 3) 誤嚥予防や嚥下障害、経管栄養などについて多職種連携、協働について理解できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 食事の意義と目的：自立した食事とは
- 第 2 回 食事の意義と目的：自立した食事の一連の流れ
- 第 3 回 自立に向けた食事の介護：食事の介助を行うにあたって
- 第 4 回 自立に向けた食事の介護：介護の基本原則にのっとった食事の介護
- 第 5 回 自立に向けた食事の介護：利用者の状態に応じた食事の介助
- 第 6 回 自立に向けた食事の介護：誤嚥の予防のための支援
- 第 7 回 自立に向けた食事の介護：食後の口腔ケア
- 第 8 回 食事の介護における多職種連携の必要性
- 第 9 回 多職種の役割と介護福祉職との連携
- 第 10 回 食事の実践（演習）①食事環境の調整
- 第 11 回 食事の実践（演習）②自立度が高い場合
- 第 12 回 ②の技術チェック
- 第 13 回 食事の実践（演習）③自立度が低下している場合
- 第 14 回 ③の技術チェック
- 第 15 回 食事の実践（演習）④経管栄養を行っている場合

【授業実施方法】

基本的には演習形式で行う。

【授業準備】

演習がスムーズに行えるよう、グループメンバーは利用者と介護者の役割をあらかじめ理解しておく。

【主な関連する科目】 介護の基本、介護過程、生活支援技術論

【教科書等】

最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 中央法規（株）

【参考文献】

・大塚彰，高齢者・障害者の「食」の援助プログラム，医歯薬出版（株）

【成績評価方法】

筆記試験 60%、実技チェック 30%、授業態度等 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

特養で介護福祉士の経験と、介護支援専門員としての在宅ケアの経験あり。現在、訪問介護員として在宅生活を送る高齢者、障害者の方の支援をしている。

特養と在宅ケアの実務経験を活かし、尊厳の保持や自立支援を踏まえ、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践のための演習を行う。

【学生へのメッセージ】

対象者の個別性や安全安楽に留意し適切な食事が提供できるように、食事環境の調整、満足感・生活への意欲につながることを考慮しながら積極的に基本技術を習得しましょう。